

|  |   |
|--|---|
| Project<br><br>24  | 地域協働専攻 地域政策グループ<br><br><b>障害のある人の地域生活支援プロジェクト<br/>—NPO法人自立の風かんばすとの連携—</b>               |
| メンバー   | [学 生] 浅利 由紀 / 川浪 結衣 / 照井 菜月 / 中村 有汰 /<br>本間 拓人 / 三春 紅華 / 吉田 一花 / 渡部 芽衣子<br>[担当教員] 廣畑 圭介 |
| <p><b>【背景】</b><br/>現代社会において、障害者が親元や施設で暮らすことを当然と考える当事者や、当事者以外の人もそのような考えを持った人が多く存在する。一方で、地域での自立生活を考える障害者も数多く存在する。</p> <p><b>【目的】</b><br/>本地域プロジェクトの目的は以下の4点である。<br/>         ① 「NPO法人自立の風かんばす」の活動に関わり、実践を通してかんばすの目的や活動内容を理解する。<br/>         ② 函館市における社会福祉の現状と課題を理解する。<br/>         ③ 障害のある人との交流を通して、障害のある人への理解を深める。<br/>         ④ 函館市の障害者福祉の推進への貢献を図る。</p> <p><b>【概要】</b><br/>2005年から函館市内を中心に、障害のある人への理解についての普及啓発活動、障害のある人の地域生活(自立生活)の支援活動を行っている「NPO法人自立の風かんばす」の活動に参画して、活動の実態や社会福祉における地域課題を理解し、函館市の障害者福祉を推進するプロジェクトである。「NPO法人自立の風かんばす」は、障害があっても地域社会で自分らしく生きることができるよう自立生活を支援し、またそれが当たり前に行える豊かな社会を目指している団体である。</p>  |   |
| <p><b>【プロセスと成果】</b><br/>1年間で主に以下の5つの活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>かんばすへの訪問と日々の活動への参加</b><br/>食事の作り置きを行う「かんばす食堂」の手伝いやかんばすの通信である「小石」の製本、ドット看板づくりといった活動に参加した。</li> <li><b>LINEオープンチャットでの検温活動</b><br/>毎日の体温とコメントをノートに記入する活動である。週ごとに担当者を決め、ノートの作成や協力の呼びかけなどを行った。前・後期で16週担当した。</li> <li><b>市内の高校・専門学校への「小石」やポスターの配布</b><br/>地域の人にかんばすを知ってもらうために立案した。8人で手分けして8校へ配布した。</li> <li><b>コミュニケーション交流会の開催</b><br/>かんばすの方々との仲を深めるための交流会を前期に開催した。地域プロジェクトメンバーが計画し、バーベキューと体育館でのミニゲームを行った。</li> <li><b>Instagramを利用した発信</b><br/>学生の目線からかんばすでの活動の様子を発信した。1年間で12回投稿を行った。</li> </ol> <div data-bbox="196 1616 496 2022"> </div> <p>5つの活動についてそれぞれ次のような成果をあげることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①コミュニケーションを図る機会となり、かんばすの活動について理解を深めることができた。</li> <li>②体温の記録により感染予防を図るとともに、コメントを通してかんばすの方々との交流ができた。</li> <li>③「小石」やポスターの配布、それに関わる説明を通して、地域の人にかんばすを知ってもらう機会を増やすことができた。</li> <li>④かんばすの方と話し合いを重ね、全員が参加できる企画を実施した。楽しい時間を過ごすことができたという声を頂いた。</li> <li>⑤投稿のために感想や学びを言語化できた。Instagramを通じて様々な人から反応を頂いた。</li> </ol> <p><b>【活動中の全体写真】</b></p> |   |

### 【総括と反省・今後の課題】

前期では、メンバーそれぞれがかんばすの皆さんとどのように接していけば良いのか悩んでしまったことで距離を縮められなかったことが反省点であった。

後期ではその反省に立って、かんばすの皆さんと日常会話を心がけたことや、会話をする機会を増やしたことで関係を深めることができた。このような取り組みから、積極的なコミュニケーションを取ることが「障害」のある人への理解を深めることができる一つの手段だと気づき、またそのコミュニケーションにおいては、それまで無意識にも「障害」によって対応に区別や差をつけていたことに気づき、「障害」のある・ないで接し方を変える必要はなく、人と人との関係、対等な関係でいることが大切だと学んだ。

活動を通しての変化は、これまで障害者福祉は施設において一方的に支援が行われるものと考えていたことや、「障害」に対してのマイナスなイメージが以下のように変わったことである。かんばすでの活動に参画し、地域の中での支え合いの実践が行われていること、またメンバーの温かさを感じたことで、その一方的な考えやマイナスなものはなくなり、(心身の)「障害」があることが生活に問題をもたせるものではないという考えに至った。また、かんばすの方々は、(心身の)「障害」に対してマイナスなイメージを持っておらず、自らが生活に楽しさを見出していることに気がついた。

課題としては、周辺地域の住民に対してかんばすを周知する直接的な活動が十分に出来たとはいえ、周辺地域の住民の理解促進が十分に図れなかったこと、かんばすと若年層との交流が少ないことである。今後も学生とかんばすが連携し、周辺地域の住民や若年層との交流を促進する必要があり、その際は特に若年層に興味を示してもらえる機会の設定や周知の方法を工夫していく必要があることが見えてきた。

### 【地域からの評価】

若年層が講演会にほほいさないとのことだったが、ポスターを貼ったり、Instagramで情報を発信したりするなど何でお知らせしたら来るか、ではなくどういう情報を載せたら興味を持ってもらえるかで考えればもっと活発なプロジェクトになるのではないかという意見があった。

障害のある方たちと真摯に向き合い、多くの学びを得たのだなということが伝わり、「障害」理解だけにとどまらず、地域の抱える具体的な課題も見えていて素晴らしいという意見があった。

障害者に対して差別をしてはならず、理解を示すことが大切なのだと思っていたが、ただ触れないで褒めてあげるといった姿勢はあってはならないことだと初めて知り、理解しているつもりでも間接的に差別をしているように感じられてしまうことに気がつきたいという意見があった。

高校に小石とポスターを配布した際、かんばすとしては初めての試みであったが、快くお話を受けていただき掲示していただけた。また2回目も同様に掲示をしていただけたことから、私たちの活動に理解を示してもらい意味のある活動として良い評価をいただけたのではないかと考えられる。

当該プロジェクトの連携協力先である「NPO法人自立の風かんばす」のメンバーから、学生が主体となってやりたい活動の提案や意見を言ってくれて本当にありがたいという評価を受けた。

### 【年間スケジュール】

- 2022年4月
  - ・授業の説明
  - かんばすのLINEオープンチャット加盟
- 2022年5月
  - ・顔合わせ(自己紹介・活動内容の説明)
  - ・活動についての話し合い
- 2022年6月
  - ・小石の紙折り(製本作業)、
  - ・廣畑地プロ“Instagram”開設
  - ・コミュニケーション交流会についての企画の話し合い
- 2022年7月
  - ・コミュニケーション交流会(BBQや交流企画)
  - ・市内の高校・専門学校に小石と鞆配布(8校分)
  - ・かぶさん家訪問
- 2022年10月
  - ・高校への小石配布(8校分)
  - ・講演会への参加
  - (会場設置の手伝い、動画の視聴)
- 2022年11月
  - ・かんばす食堂と事務作業の手伝い
  - ・蔦屋書店でお使い
  - ・検温活動の実施(12月末まで)
- 2022年12月
  - ・ドットのパネルを入れ替え
  - ・Zoomで自立ステーション「つばさ」のクリスマス会に参加

